



# 取付方法

## 1 取付位置の確認

この製品は、背後の浴室壁面または浴室天井面に電源コードを取り出すための貫通穴をあけることが必要です。取り付けには、必ずお客様の了承を得て、穴をあけても支障のない場所を選んでください。

### 1.機器を設置する壁は浴室室内壁面であること。

### 2.取付可能な寸法の確認

天井面から30mm以上、両側壁面から200mm以上離して取付けてできることを確認してください。(図1、2参照)

(天井面や壁面からのスペースを確保できない場合は、性能を十分に発揮できませんから、壁面や、造営物を熱によりいためることができます。)

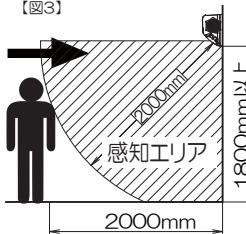
- 製品天面から天井面まで、30mm以上
- 製品左側面から壁面まで、200mm以上
- 製品右側面から壁面まで、200mm以上
- 製品前面から造営物まで、500mm以上

\*下方方向の窓枠に突出物がある場合、変形・変色するおそれがありますのでオプション(別売品)の温風カバー(品番: RD-HG1)を取り付けてください。(施工後の試運転時、必ず確認してください。)

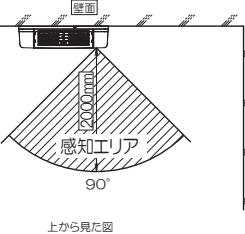
### 3.人感センサー感知エリア目安

下図の感知エリアを参考にして取付位置を選定してください。

【図3】



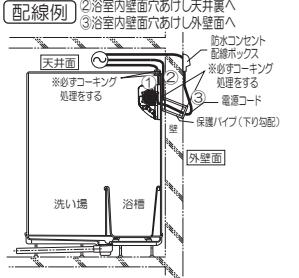
【図4】



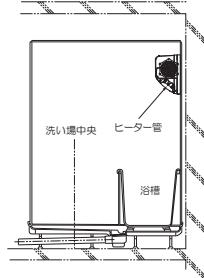
### 4.ヒーターの輻射方向は、洗い場に向くこと。(図6、7参照)

### 5.電源配線確認(配線例参照)

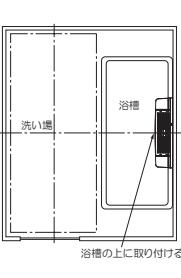
【図5】 ①浴室内天井穴あけし天井裏へ ②浴室内壁面穴あけし天井裏へ ③浴室内壁面穴あけし外壁面へ



【図6】側面図



【図7】上面図



### △ 注意

- 本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う。  
落下により、けがをするおそれがあります。
- ねじが固定しにくい場合は市販のボードアンカー、補強材等を使用する。  
落下により、けがをするおそれがあります。

## 2 取り付け前の準備

### 1.製品から取付ベース板を外す。

本体下部の固定ねじ1本をゆるめ、取付ベース板を本体から外す。(図8、9参照)



【図8】



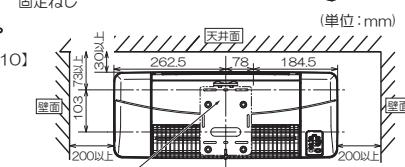
【図9】



### 2.取付ベース板の取付位置を決める。

(図10参照)

【図10】

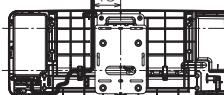


### 3.電源コード取出口の設定

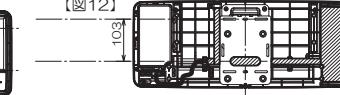
(図11、12参照)

【電源コードを天井裏へ取り出す場合】

【図11】



【電源コードを外壁へ取り出す場合】



【図12】

### お願ひ

壁打ちセンサー等を使用して間柱・筋交いかないか確認してから作業をしてください。

### 4.電源コード通し穴位置と本体取付板ねじ穴位置(4か所)を壁にかける。

■下穴をあける前に本体取付板をかけた穴位置に合わせ、水準器を使用して水平度を再度確認する。

### 5.本体取付板のねじ穴をかけたところに下穴をかける。(浴室室内から外壁に向かって)

1/50~1/100の下り勾配で穴をあける。

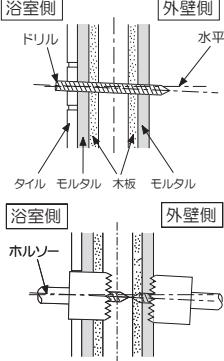
1)ロングドリルを使用して、下穴をあける。

浴室の内・外壁の現状確認を行い、タイル・壁等が損傷している場合には、お客様に説明し、了解を得ておくか、事前に補修を行っておいてください。

■タイルやタイル目地での下穴あけについては、タイルを破損しないよう十分注意してください。

■ねじ締め前に下穴の周囲にシリコンを塗布してください。

■下穴径は、壁面の材質に合わせてあけてください。



## 取り付け前の準備 つづき

### 6.コード保護パイプ外形穴をあける。

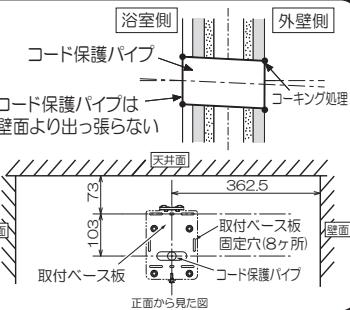
内径φ15以上の保護パイプの外形穴をあける。

■壁材質によって、ホールソーを選定してください。

(参考) タイル、モルタル……ダイアモンド

木板……………木工用

塗装鋼板……………板金用



### 7.コード保護パイプを取り付ける。

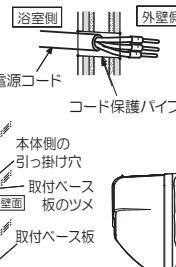
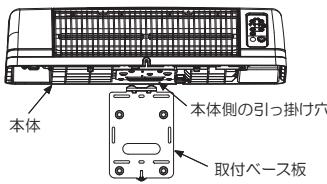
#### 8.取付ベース板を取り付ける。

付属の取付ねじ4本を使って、取付ベース板を堅固に、また確実に取り付けてください。

## 3 本体の取り付け

### 1.電源コードをコード保護パイプに通し、外壁側へ持っていく。

2.本体側の引っ掛け穴を取付ベース板のツメに引っ掛け(①電源コードを押し込みながら、本体を壁側まで密着させ②本体固定ねじで固定する。(③))



## 4 電源の接続

### 注意事項

■必ず専用電源ブレーカーを使用して、15A以上を確保できるようにしてください。

やむを得ず他の機器と共に用する場合でも、同時に運転した際に許容範囲内であることを確認してください。

この場合は、点検の際に他の機器も電源を切ることになりますので、必ずお客様の確認を取って下さい。

■緑色リード線を必ずアース接続工事をしてください。

(D種接地工事)

■分電盤等からの電源工事は必ず有資格者が作業を行ってください。

■配線コードはVVF v1.6/2.0以上か同等品の2~3芯を使用してください。

細い芯線のコードを使用すると、発熱により発火のおそれがあります。

■端子の接続部は、絶対に溝らないよう防水処理を行ってください。

■電源コンセントは、絶対に使用しないでください。

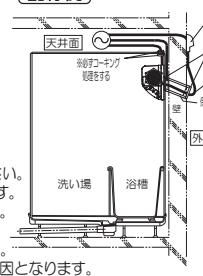
■電源は必ず単相交流100Vを使用して、確実に配線を行ってください。

間違った電源を使用したり不十分な配線をすると、火災や故障の原因となります。

■本体の電源接続は、浴室内で絶対に行わないでください。

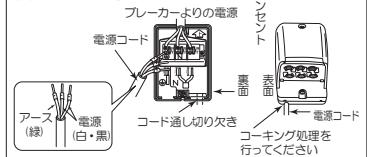
感電や火災の原因になります。

配線例

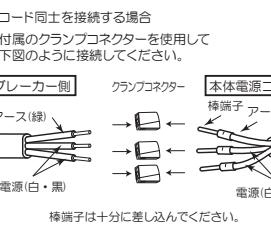


【配線例1】

防水コンセントに接続する場合  
電源コードに付いている端子を直接防水コンセント裏側の連絡端子に接続してください。



【配線例2】



### 警告

電源コードおよび棒端子は絶対に切断しない。  
漏電、感電や火災のおそれがあります。

【壁スイッチを経由した現行の電源を利用する場合の注意】

●本機は電気消費量最大1220Wを必要としますので、壁スイッチを電源スイッチとしては使用しないでください。

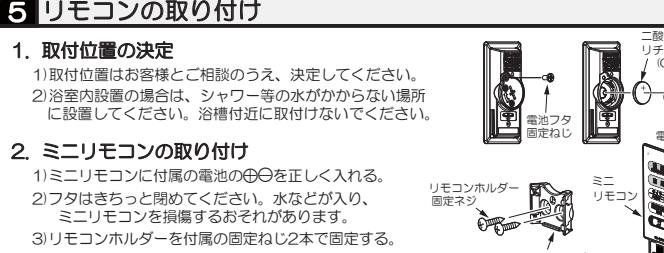
火災や故障の原因になります。

●この場合は、必ず壁スイッチの配線を取り外して直結してください。

【警告】

換気扇用のスイッチは絶対に使用しない。

漏電、感電や火災のおそれがあります。



## 5 リモコンの取り付け

### 1. 取付位置の決定

1)取付位置はお客様とご相談のうえ、決定してください。

2)浴室内設置の場合は、シャワー等の水がかからない場所に設置してください。浴槽付近に取付けないでください。

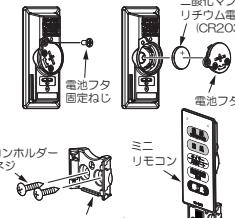
### 2. ミニリモコンの取り付け

1)ミニリモコンに付属の電池の $\oplus/\ominus$ を正しく入れる。

2)フタはきちんと閉めてください。水などが入り、ミニリモコンを損傷するおそれがあります。

3)リモコンホルダーを付属の固定ねじ2本で固定する。

4)ミニリモコンをリモコンホルダーに差し込む。



## 6 試運転

■取付工事終了後、正しく結線されているか確認してください。

■取扱説明書を参照して、お客様立ち会いで試運転を行い、異常がないか確認してください。

1.本体は確実に取り付けられているか?

2.リモコンを操作して、取扱説明書どおり動作するか?

3.運転中に振動や異常音がしないか?

■人が退出後1分を経過しても運転が停止しない場合は、

付属の検知エリア調整シートで右図を参照し人感センサー部を

ふさぎ検知エア調整して下さい。

このことは、取扱説明書のP 8『人感センサー検知エリア調整方法』にも記載しています。

■2台取り付けの場合(SDG-1200GBMとSDG-1200GSM)

片方の機種をチャンネル1からチャンネル2へ変更することができます。

詳細は、取扱説明書のP 5『リモコン(SD-GMC)のチャンネル変更のしかた』を参照してください。

■引き渡しまで期間があく場合は、試運転確認後、電源ブレーカーを切り、リモコンの電池を抜き、本書、取扱説明書(保証書付き)とともに保管してください。